

平成25年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年3月13日

上場取引所 大

上場会社名 ティーライフ株式会社

コード番号 3172 URL <http://www.tealifeir.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 植田 伸司

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営企画部長 (氏名) 鈴木 守

TEL 0547-46-3459

四半期報告書提出予定日 平成25年3月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年7月期第2四半期の連結業績(平成24年8月1日～平成25年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年7月期第2四半期	2,714	—	153	—	161	—	93	—
24年7月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 25年7月期第2四半期 115百万円 (—%) 24年7月期第2四半期 —百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年7月期第2四半期	21.96	—
24年7月期第2四半期	—	—

(注) 当社は、平成25年7月期第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成24年7月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年7月期第2四半期	4,205	3,315	78.8
24年7月期	—	—	—

(参考) 自己資本 25年7月期第2四半期 3,315百万円 24年7月期 —百万円

(注) 当社は、平成25年7月期第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成24年7月期の数値については記載していません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年7月期	—	0.00	—	20.00	20.00
25年7月期	—	0.00	—	—	—
25年7月期(予想)	—	—	—	23.00	23.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年7月期の連結業績予想(平成24年8月1日～平成25年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,137	—	504	—	510	—	300	—	70.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は、平成25年7月期第2四半期連結累計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載していません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)： 有
新規 1社 (社名) 株式会社アベックス 、 除外 1社 (社名)

(注)詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有
② ①以外の会計方針の変更： 無
③ 会計上の見積りの変更： 有
④ 修正再表示： 無

(注)詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年7月期2Q	4,250,000 株	24年7月期	4,250,000 株
25年7月期2Q	— 株	24年7月期	— 株
25年7月期2Q	4,250,000 株	24年7月期2Q	3,500,000 株

(注)当社は、平成23年11月2日付で普通株式1株につき50株の株式分割を行っております。平成24年7月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して発行済株式数(普通株式)を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(連結の範囲の重要な変更)

当第2四半期連結会計期間において、株式会社アベックスの全株式を取得したことにより、当第2四半期連結会計期間から、同社を連結の範囲に含めております。

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(株式分割について)

当社は、平成23年11月2日付で普通株式1株につき50株の株式分割を行っております。

(決算説明会内容の入手方法)

当社は、平成25年3月19日(火)に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会の資料については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(6) セグメント情報等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間から四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期との比較分析は行っておりません。

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要による緩やかな景気回復の兆しや、新政権への期待から過度な円高の是正、株価回復の動きがみられたものの、欧州債務問題や新興国の成長鈍化による世界景気の減速に加え、長期化するデフレの影響から、先行き不透明な状況で推移しました。

小売業界におきましては、厳しい雇用情勢や所得の伸び悩みに加え、消費税増税の動きなどにより消費者の生活防衛意識はより高まっており、企業間の低価格競争が増す等、依然として厳しい経営環境となりました。

このような環境のなか、当社グループは、お客様に喜んでいただけることを念頭に、価格訴求商品を導入するとともに、新商品を継続的に投入し品揃えの強化を図ったほか、よりわかり易く快適な購買環境を提供するため、カタログ、インターネット等の各媒体における売場の整備を実施してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は2,714百万円、営業利益は153百万円、経常利益は161百万円、四半期純利益は93百万円となりました。

なお、当第2四半期連結会計期間において、株式会社アペックスの全株式を取得したことにより、当第2四半期連結会計期間から同社を連結の範囲に含めております。また、これに伴い、当社グループ（当社及び連結子会社）のセグメント区分を、カタログやインターネット等を通じて一般消費者に健康茶、健康食品、化粧品等を販売する「小売事業」及び主にテレビショッピングやカタログ販売を行う通信販売会社に生活雑貨や食品等を販売する「卸売事業」としております。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

①小売事業

小売事業では、インターネット利用者数の増加に応じ、ネット媒体を通じた新規顧客の獲得に注力したほか、「国産ごぼう茶」等のネット限定商品を展開し集客力を強化するとともに、スマートフォン向けサービスの拡充を加速させ、購買環境の向上に努めてまいりました。また、商品券セール（商品券、未使用の切手・ハガキ等の手持ちの金券で買い物ができる企画）や下取りセール（手持ちの健康食品または化粧品の送付で買上金額が割引される企画）の開催に加え、カタログ頁数を拡大し選び易い売場作りを推進するとともに、自社製造の主力商品、価格競争力のある集客商品、旬の季節商品等をバランス良く投入することにより、品揃えを強化し、売上の拡大を図ってまいりました。あわせて、顧客定着率の向上を目的に、顧客属性別に購買分析を行い、属性に応じたアプローチ方法の構築に取り組んでまいりました。

この結果、売上高は2,308百万円、営業利益は111百万円となりました。

②卸売事業

卸売事業では、テレビショッピングやカタログ販売を行う通信販売会社に、各社がターゲットとする客層に最適な商品の提案や、商品の企画、開発を実施してまいりました。また、北欧寝具「ダンフィルシリーズ」において積極的な営業提案を推進するとともに、メーカーと共同開発している食品「プロが選んだシリーズ」や、時流に乗った人気商品「韓国宮廷料理 参鶏湯」等の拡販に注力してまいりました。

この結果、売上高は406百万円、営業利益は57百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、4,205百万円となりました。

流動資産合計2,773百万円の主な内訳は、有価証券が862百万円、受取手形及び売掛金が837百万円となっております。

固定資産合計1,431百万円の主な内訳は、有形固定資産が325百万円、のれんが291百万円となっております。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、889百万円となりました。

流動負債合計661百万円の主な内訳は、買掛金が255百万円、未払法人税等が78百万円となっております。

固定負債合計227百万円の主な内訳は、退職給付引当金が28百万円となっております。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、3,315百万円となりました。

この主な内訳は、利益剰余金が2,607百万円、資本金が356百万円となっております。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、税金等調整前四半期純利益、仕入債務の増加額等があったものの、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出等があったことにより、992百万円となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、72百万円となりました。

これは、主に税金等調整前四半期純利益164百万円があったものの、売上債権の増加額197百万円、法人税等の支払額90百万円があったためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、607百万円となりました。

これは、主に連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出425百万円、有価証券の取得による支出100百万円があったためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、233百万円となりました。

これは、主に短期借入金の返済による支出126百万円、配当金の支払額85百万円があったためであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきましては、平成24年12月5日の「連結決算開始に伴う連結業績予想に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

(連結の範囲の重要な変更)

当第2四半期連結会計期間において、株式会社アペックスの全株式を取得したことにより、当第2四半期連結会計期間から、同社を連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当第2四半期連結累計期間より、平成24年8月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間 (平成25年1月31日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	634,655
受取手形及び売掛金	837,756
有価証券	862,328
商品及び製品	234,370
仕掛品	23,310
原材料及び貯蔵品	133,606
その他	60,658
貸倒引当金	△12,725
流動資産合計	2,773,960
固定資産	
有形固定資産	325,567
無形固定資産	
のれん	291,590
その他	164,151
無形固定資産合計	455,742
投資その他の資産	
投資有価証券	266,955
その他	393,859
貸倒引当金	△10,938
投資その他の資産合計	649,876
固定資産合計	1,431,186
資産合計	4,205,147
負債の部	
流動負債	
買掛金	255,798
未払法人税等	78,000
賞与引当金	29,640
役員賞与引当金	4,158
ポイント引当金	18,658
その他	275,685
流動負債合計	661,939
固定負債	
退職給付引当金	28,446
その他	199,121
固定負債合計	227,567
負債合計	889,507

(単位：千円)

当第 2 四半期連結会計期間
(平成25年 1 月31日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	356,625
資本剰余金	326,625
利益剰余金	2,607,556
株主資本合計	3,290,806
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	24,832
その他の包括利益累計額合計	24,832
純資産合計	3,315,639
負債純資産合計	4,205,147

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年8月1日 至 平成25年1月31日)
売上高	2,714,252
売上原価	886,676
売上総利益	1,827,575
販売費及び一般管理費	
広告宣伝費	780,974
貸倒引当金繰入額	7,539
役員報酬	70,560
賞与引当金繰入額	28,622
役員賞与引当金繰入額	4,158
退職給付費用	7,197
その他	774,604
販売費及び一般管理費合計	1,673,655
営業利益	153,920
営業外収益	
受取利息	1,587
受取配当金	1,324
為替差益	2,067
その他	3,222
営業外収益合計	8,201
営業外費用	
支払利息	80
その他	86
営業外費用合計	166
経常利益	161,956
特別利益	
受取補償金	3,160
特別利益合計	3,160
特別損失	
固定資産除却損	464
特別損失合計	464
税金等調整前四半期純利益	164,651
法人税等	71,309
少数株主損益調整前四半期純利益	93,341
四半期純利益	93,341

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年8月1日 至 平成25年1月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	93,341
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	22,377
その他の包括利益合計	22,377
四半期包括利益	115,719
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	115,719
少数株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年8月1日 至 平成25年1月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	164,651
減価償却費	33,117
のれん償却額	15,346
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3,796
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,298
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△10,902
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	6,282
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	2,766
受取利息	△1,587
受取配当金	△1,324
為替差損益 (△は益)	△2,067
支払利息	80
受取補償金	△3,160
固定資産除却損	464
売上債権の増減額 (△は増加)	△197,286
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△67,821
仕入債務の増減額 (△は減少)	60,943
その他	10,351
小計	12,351
利息及び配当金の受取額	3,321
利息の支払額	△80
補償金の受取額	3,160
法人税等の支払額	△90,916
営業活動によるキャッシュ・フロー	△72,164
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△102,550
定期預金の払戻による収入	100,000
有価証券の取得による支出	△100,000
有形固定資産の取得による支出	△8,781
有形固定資産の除却による支出	△304
無形固定資産の取得による支出	△7,020
投資有価証券の取得による支出	△50,900
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△425,208
その他	△12,653
投資活動によるキャッシュ・フロー	△607,418

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
(自 平成24年8月1日
至 平成25年1月31日)

財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の返済による支出	△126,000
長期借入金の返済による支出	△22,038
配当金の支払額	△85,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	△233,038
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,067
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△910,553
現金及び現金同等物の期首残高	1,902,737
現金及び現金同等物の四半期末残高	992,183

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

(セグメント情報)

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年8月1日 至 平成25年1月31日)

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、株式会社アペックスを連結の範囲に含めたことに伴い、「小売事業」及び「卸売事業」の2つを報告セグメントとしております。

「小売事業」では、主に健康茶、健康食品、化粧品を一般消費者に通信販売しております。

「卸売事業」では、主に生活雑貨、食品を通信販売会社に販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	小売事業	卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,308,147	406,104	2,714,252	—	2,714,252
セグメント間の 内部売上高又は振替高	137	93	231	△231	—
計	2,308,285	406,197	2,714,483	△231	2,714,252
セグメント利益	111,975	57,123	169,099	△15,178	153,920

(注) 1. セグメント利益の調整額△15,178千円は、のれんの償却額△15,346千円、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「卸売事業」セグメントにおいて、平成24年11月1日付で株式会社アペックスの株式取得を行い、新たに連結子会社としたことにより、306,937千円増加しております。